

---

## はじめに

二〇二二年七月に新たに開館して以来、石川県立図書館には多くの方々を訪れています。

開館に際して立てた来館者の目標数値は年間一〇〇万人でしたが、年度途中に開館した二〇二二年度はともかく、二〇二三年度には早くも目標値を上回る一〇二万人を記録しました。来館者数はその後も順調に増え続け、二〇二四年度には一一九万人に達しました。二〇二五年度も引き続き毎月前年度を上回る来館者数を記録しました。

なぜ石川県立図書館は好調をキープし続けているのでしょうか。

中心部を構成する円形の大閲覧空間は圧倒的な迫力で来館者に迫ってきます。一〇〇種類以上もの椅子やソファがそれぞれにふさわしい場所に置かれ、建物の魅力にいろいろを添えています。石川県立図書館は魅力的な施設です。

でも、それだけではありません。円形の大閲覧空間では、本にそれほど興味を持っていない人でも思わず手に取ってしまいたくなくなるように、ユニークなテーマ別に選ばれた本が表紙を見せて並べられています。赤ちゃん連れの方でも誰でも気兼ねなく来館できるように、館内はおしゃべり自由です。他の人たちに配慮してでしたら、写真撮影も自由です。楽しく、充実した時間を館内で過ごしていただける工夫が随所にこらされています。

私たちにとって、イベントも石川県立図書館が伝える魅力の重要な一部です。ここで私たちが想定しているイベントは、人々を集めて行う講演会やトークショーなどですが、展示会や壁などを使ったパネル展示などもイベントの範囲に含めています。

人々の興味をかき立て、今まで図書館に向かなかったような人まで行ってみたくなるようなイベント、そして、イベントに参加した人たちを、本を通じてさらに知的世界の探究へと引きこむようなイベントはどんなイベントなのか。

本書では、宮原佑介さんを中心に、空良寛さん、長谷部涼子さん、磯貝祐喜さんという、新しい石川県立図書館の立ち上げに携わった皆さんが、図書館を立ち上げ運営する際に検討したことや実践したことを説明しています。さらにイベントに焦点を当てて、図書館にふさわしいイベントはどのようなもので、どのように実施すればよいのかについて考え、工夫し、実践し

てきた経験を整理し、図書館における効果的なイベントについて実例を交えて解説しています。イベント開催の手引きとなることを意図して書いたものです。

本書は全八章から構成されています。前半の四章は、新しい図書館について、構想から開館後の運営まで経験したことを説明しています。新しく図書館を作ろうとしている皆さんの参考になればと思っています。第五章から第八章はイベントについて企画から開催までの検討事項を、広報も含めて解説しています。

なお、本書が扱っているのは主に二〇二四年度までのイベントで、二〇二五年度に新たな工夫を加えて実施しているさまざまなイベントは取り上げていません。円形大閲覧空間の二階で開催される石川県立図書館主催の企画展示や、能登半島地震関連で続けている数多くのイベントも扱っていません。そうした意味で、本書は新しい石川県立図書館のイベント関連活動の全貌を伝えるものではありませんが、その扱って立つ考え方や工夫のエッセンスはお伝えできていると考えています。

はじめに

本書を一番読んでいただきたいのは、図書館で働く皆さん、図書館を設置している自治体の皆さん、新たな図書館の建築を計画している自治体・設計者の皆さんです。「来館者を増やすなんて難しい」「イベントを企画するなんて大変」「図書館がなんでイベントを企画するの？」

そう思ったら、ぜひ読んでみてください。

読者の皆さんが本書から、図書館をより良く運営するためのヒントを少しでも得ていただければ嬉しい限りです。

二〇二六年三月

石川県立図書館長 田村 俊作

新しい図書館でイベントを企画する——石川県立図書館の挑戦／目次

---

はじめに (田村俊作)

第一章 図書館の現状を考える ..... 1

1 利用者も貸出冊数も減少傾向の図書館 1

2 読書が習慣になるきっかけ作りは大変 2

3 読書習慣がない人が図書館に来るだろうか 4

◆ Coffee Break 1 ◆ 石川県立図書館で働くのは大変? 6

第二章 新しい図書館の構想を練る ..... 9

1 新石川県立図書館基本構想の策定 11

2 二〇〇の図書館の視察 14

◆ Coffee Break 2 ◆ 本の並べ方は図書館の運営として

正しいのか? 27

第三章 新しい図書館を作る……………29

1	検討体制	30
2	仕事内容の全体像	32
3	配架計画・一二テーマの決定	34
4	資料管理	46
5	本の引っ越し	53
6	資料の特別収集	59
7	統計の整理	60
8	条例・規則・要綱策定	62
9	開館気運の醸成に向けた各種イベントの開催	66
◆	Coffee Break 3 ◆ おしゃべり自由は大丈夫なの？	67

第四章 新しい図書館を運営する……………69

- 1 立地条件 69
- 2 外構・配置計画 70
- 3 建物の特徴 71
- 4 組織体制 81
- 5 経営目標と実績 84

◆ Coffee Break 4 ◆ 飲み物飲んでOKのルールは  
大丈夫なの? 86

第五章 イベントを開催する意義を整理する……………87

- 1 本で読んだ知識を深められる 87
- 2 来館するきっかけ、本を読むきっかけになる 88

3	図書館をPRするチャンスができる	89
4	職員数や予算に左右されない	90
5	職員の能力が向上する	90
◆	Coffee Break 5 ◆ 自習してもよいって図書館としてどうなの？	91
第六章	イベントを企画する	93
1	自治体の施策に合致している	94
2	図書館らしくない	95
3	学校と連携している	96
4	来館者が主人公である	97
5	ニュースになりやすい	98
6	委託任せではない	99

7 何度も開催する

100

◆ Coffee Break 6 ◆ 石川県立図書館は複合施設？

102

第七章 イベントを開催する

..... 105

1 図書館らしくないイベント開催事例

106

2 学校と連携したイベント開催事例

123

3 イベント場所が不要だったイベント開催事例

132

4 展示に重きを置いたイベント開催事例

136

5 手ごたえがなかったイベント開催事例

140

◆ Coffee Break 7 ◆ 司書と行政職が上手く連携  
するには？

145

第八章 イベントの効果を高める

..... 147

1	当館が利用している広報ツール	147
2	イベント開催が決定したら	154
3	ウェブ中心の広報の補完	159
4	自前の広報ツールを確立する	162
5	これからの課題	168
◆	Coffee Break 8 ◆	
	来館者数にこだわる必要はあるの？	173
	おわりに（宮原佑介）	177
	参考文献	179
	索引	ii
	執筆者紹介	i

---

## おわりに

---

イベントの積極的な開催は図書館の施策として正しいのか、効果があるのか。

どのようなイベントが効果的か、どんな広報をすればよいのか。来館者が増えても本を読む人が増えなかった場合、そのイベントの開催は図書館として正しいのか。私たちは最初から答えが分かっていたわけではなく、手探り状態でした。

時に参加者が一人しかいなかったり、着ぐるみに入ってから閉所恐怖症である自分と出会って体調不良になったり、大勢の前でピアノを弾いたり、子ども相手に本気でボードゲームで戦ったりしながら、徐々にコツをつかんでいきました。

イベントを重ねるにしたがって、おすすめの本を聞かれたり、イベントで展示していた本を借りたと言われる、利用者の皆さんから直接意見を聞ける機会も増えていきました。これ

らの声を大事にしながら日々の図書館運営とイベントの企画を今後も続けるつもりです。

下げてもよい敷居は下げる。これが今の図書館、あるいは他の公共施設にも言えることだと思います。

図書館の来館者数や貸出冊数の全国的な減少などの暗いニュースを冒頭に説明しましたが、小さなきっかけで本を読む人や図書館を利用する人が増えると確信しています。その小さなきっかけにイベントがなり得ると確信できたことが本書を書くきっかけになりました。

紹介してきた事例は好事例、悪事例どちらにとっていただけでも問題ありません。本書が読まれることで図書館が少しでも変わり、「なんだか楽しそう」と気軽に図書館に来る人が増えれば幸いです。

石川県立図書館の窓辺から

宮原 佑介

\* 石川県立図書館の写真集がホームページにあります。こちらもぜひご覧ください。

<https://www.library.pref.shikawa.lg.jp/category/aboutlibrary/2996.html>

